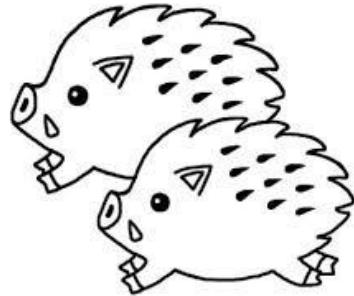


# 研究所だより

月刊『住民と自治』付録  
NO.144 2019年1月号  
長野県住民と自治研究所

新年あけましておめでとうございます。長野県住民と自治研究所は発足から16年目となります。今年は統一地方選挙があり、地方自治のあり方について大きく問われる春となります。本研究所としても「地域再生」の視点から、積極的に学習と交流を進めていく所存です。これからも皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

理事長 安井幸次



## リニア工事の中で地域づくりを考える

理事 米山義盛（松川町）

2019年が始まる。平和を守る大道を広げる一年にしたいとの思いを強くしたいです。

本研究所が共催となり、本紙の昨年11月号でご案内した学習会「大鹿村で中山間地の地域づくりを考える！」が、南信州地域問題研究所を事務局として12月15日（土）午後に開催され、大鹿村内外からそれぞれ半数の約30人が参加しました。その内容をご紹介します。

### ■西下トンネル開通日に

その日は、県道小渋線・西下トンネル開通の日で、大鹿へ向かう道で式典前の写真も撮った。県道の改善が図られたのは喜ばしいことではあるが、帰途に通ると埃・排気ガスが充満して換気に不具合があるのでないかと出来が心配される。昨年の今頃崩落事故に見舞われた四徳渡トンネルの開通も近いようである。

前代未聞の大型開発・リニア中央新幹線の大鹿工区起工式(2016.11.1)から2年が経過した。大鹿村村長が大鹿村にとって「百害あって一利なし」と述べたと聞くリニア工事は、焦る気持ちはあるても思い通りに進んでいないような気がする。

何よりも排出土の置き場が未確定のままという無謀な計画をそのまま認可した国土交通省が裁判に訴えられている。完成を夢見て我慢を余儀なくされるか、「こんな状況はとても我慢できない」窮状を訴え「止めてくれ！」と言うべきか、今判断が問われている。

天然楽園の大浦湾への土砂投入が強行された沖縄・辺野古同様な状況に、今大鹿村でも直面しているというのは大げさだろうか。



県道小渋線・西下トンネル開通式典

地域生活や平和志向とリニア工事や辺野古工事が共存できるものが問われている。こうした状況の中での今回の学習会への新聞社等の取材は、西下トンネルの開通について足を伸ばしてくれるのではとの期待をもったが、残念ながらなかった。

### 自治体研究社の書籍紹介

社会教育・生涯学習研究所監修、岡庭一雄他・編

### 『自治が育つ学びと協働 南信州・阿智村』

定価 1,800円

(本会にご注文いただければ税抜きにておわけします)

## 大鹿村で中山間地の地域づくりを考える！

人口急減と都市への流出により、地域の存続が焦眉の課題となっています。「持続可能な地域づくり」への見通しを、今日の現状の中で考え共有する機会を大鹿村で待ちたいと思います。大鹿村で生きる人たちの様々な活動から学ぶと共に、全国各地の中山間地での住民による農業や工夫で展開される地域づくりに学びながら、これから地域づくりについて考えたいと思います。是非多くの皆様のご参加をお待ちしています。

### 講演 「中山間地の地域づくりで大切なこと」

講師 相川陽一さん(長野大学准教授)

#### 大鹿からの報告

・地域福祉の活動 NPO法人あんじやネット 土屋道子さん

・地域産業と観光との展望 旅舎うまのじょう(右馬允) 前島久美さん

・地域おこし協力隊から役場へ 木下雄貴さん

#### 質疑・意見交換

開催日 2018年12月15日(土)  
午後1時30分～4時

#### 会場 大鹿村交流センター・大広間

大鹿村大河原 役場先・道の駅の反対側

資料代 300円(大鹿村在住者無料)

終了後希望者で懇親会を予定

#### 共催 南アルプスから学ぶ会

長野県住民と自治研究所・南信州地域問題研究所

問い合わせ先 南信州地域問題研究所 TEL・FAX 0265-52-5391



相川陽一氏の講演と質問分野  
・鳥取県中山間地域研究センターの地域実験スクールを経て現職。  
・専門：地域社会学、日本同時代史。自然の恵みを活かす農の富みに着目して、大規模開発から地域自立や地域資源を生かした農山村の内発的な発展について研究。最近は公害問題や住民運動の資料収集・整理・保存・活用にも注力。



リニア以前から、行政でできない様々な事を取り組んで来たことを紹介した。・宅幼老所「まめ大福」・子どもくらぶ「バンビ」・便利屋「こまわりさん」・村内リサイクル・公共交通空白有償運送「いかまいカー」・大鹿かるた・若者定住対策「やますみ」・高齢者等安心サポート事業「安心つなぎ愛隊」と、8本という多様な事業を地域生活の必要から積み重ねてきたことは「あんじやねえの声を広げたい。」との趣旨にそつたもので実に頼もしいと思われる。

#### ■中山間地域の地域づくりに大切なこと（岡庭さん）

今回の学習会のねらいは、岡庭一雄所長の開会あいさつで示された。つまり、人口減少期の住民の主体的な地域づくり・地域再生の道を探ることを、大鹿村で生きる3人の方から興味深い報告と長野大学の相川陽一先生からの島根県浜田市弥栄地区での取り組みの紹介を受けつつ、「中山間地域の地域づくりに大切なこと」と題する講演から、学び合うものである。

学習会は、南信州地域問題研究所・常任理事の高橋寛治さん（飯田市退職後、和歌山県高野町副町長を経験）のコーディネートで行われた。報告者は3名で、

「NPO法人あんじやネット」の地域福祉の活動を土屋道子さん、村内で地域おこし協力隊を2年間経験した後村役場・産業建設課で農業や観光振興に関わる仕事を行う木下雄貴さん、そして高校卒業後東京や海外での10年生活した後Uターンし両親が経営する旅館業に従事する前島久美さんという顔ぶれである。

#### ■地域を生かす仕事をつくる（土屋さん）

それぞれ詳細に紹介することはできないが、土屋さんの報告は、「地域を生かす仕事を作り出すことが、大鹿村で安心して暮らし続けるための解決方法だと考え」、「この村を愛し…活力ある地域づくりを実践するため」に2006年1月にNPO法人を設立し、正に

#### ■地域おこし協力隊から定着をめざし（林さん）

飯田市内出身の木下雄貴さんは、大学進学を機に愛知県へ大学卒業後、3年間愛知県内でサラリーマン（靴店）生活後、2014年4月～2016年3月 大鹿村地域おこし協力隊になり、農業振興に関わる業務（大鹿里山市場、いちご組合、農業委員会、野菜の宅配事業）に携わり、ゲストハウスについて学ぶために大町市へ半月程度赴いたこともあるが、2016年4月から大鹿村役場産業建設課へ就職し、主に農と観光に関する仕事に関わっている。

休みの日はカメラ片手に村内外をまわるなど、地域に若い仲間を広げつつある。と役場に入ってこれからどう仕事に取り組むかの思いを語られた。

#### ■リニア工事で観光半減（前島さん）

3人目の旅舎「右馬允」の前島久美さんからは、リニア工事進行の中での村への旅行者が6千人から3千人へと半減していることや入村の際のダンプとのすれ違いのこと、観光協会旅館部会でパッケージツアーへの模索と限界などを紹介された。

また、リニア工事のことが公式の場で話ができない現実があることを、「リニアは公害で、生活が壊されてきている」と語った。正しく村長がかつて語った「百害あって一利なし」が現実となっていることとなって

いる。こうした現実に、大鹿村としての対処が、今、焦眉の課題となっている。

### ■記録と記憶を未来に伝える（相川さん）

そうした大鹿村現地での3者からの報告を受けて、相川先生から助言に富む講演を受けることとなった。

高度経済成長期の公害問題に取り組んだ住民運動として、伊達火力発電・大分県の松下竜一のことや三島沼津コンビナート問題などに触れ、現代の人権と環境を守る「記録と記憶を未来に伝える」研究者を志して歩みはじめた。

島根県中山間地域研究センターの常駐研究員（2009～2013年）として、地域の方々と協働して活動してきた経験を基に、地域自給と資源の伝統的活用で「暮ら



し農業」の保持による中山間地の農林業の捉えなおすと「半農半X」の可能性など、大鹿村での地域作りと「暮らし農業」のヒントに富む講演であった。

私の地元・松川町上片桐地区でも講演にお呼びすべく、取り組みたい。

## 故伊東昇氏近現代史研究資料内覧会

大町市を拠点に旺盛な近現代史の研究活動を展開された伊東昇氏（仁科路研究会副会長）が2018年4月に逝去されました（享年86歳）。伊東氏は、本会の会員でもあり、調査・学習活動をご指導いただきました。このたび、ご遺族より資料の寄託を受けて、本会ではこれら資料が適切なアーカイブ推進機関に受け入れられるまでの間、目録づくりや資料研究を通じて、伊東氏の志に少しでも寄り添いたいと考えています。

その一環として、伊東氏が収集した資料のうち、原著者の著作権や個人情報保護の観点からの支障がないと思われるものについて、研究や学習を目的とした内覧会を行います。資料はテーマ別に3回にわけて紹介します。それぞれの分野の研究者や関係機関の方々の目に触れることが期待して、ご案内申し上げます。

### 第1回 大北地域の満蒙開拓義勇軍

日時：2月14日（木）午後2時～4時

内容：満蒙開拓義勇軍として大陸に渡り、奇跡的に帰還をとげた大北地域の方々から収集した資料から、その苦難の軌跡をたどります。

### 第2回 大町市域の諸宗教

日時：2月21日 2月21日（木）午後2時～4時

内容：伊東氏が『大町市史（近代・現代）』（1985年）の宗教史を担当した際に収集した資料を見ながら、政治社会の激変の中で志を貫いた先人たちに思いを馳せます。

### 第3回 高瀬川流域の電源開発

日時：2月28日（木）午後2時～4時

内容：伊東氏が市史の未開の分野を切り開いた研究資料を紐解きます。信濃鉄道や信濃木崎夏期大学、国産アルミニウム開発などに話題は広がります。

対象：特に制限なし。関心あれば誰でも

主催・会場・申込先：NPO地域づくり工房

持ち物：特になし。一次資料の撮影は不可。

長野県大町市仁科町3302（〒398-0002）

資料代：論説のコピー代等。寄付大歓迎。

Tel&Fax：0261-22-7601（担当：傘木・中村）

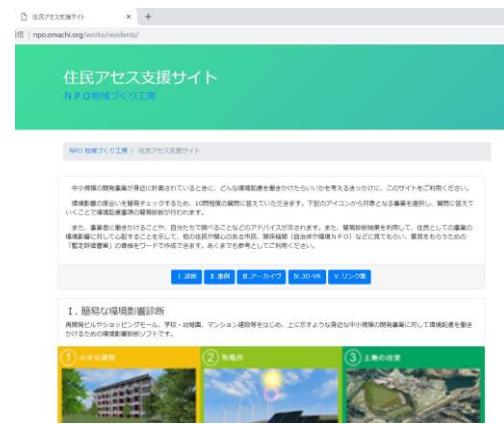
定員：10名程度（事前申込み願います）

E-Mail：npo@omachi.org

## 住民アセス支援サイト開設

NPO地域づくり工房では、住民アセス（住民団体が自ら資金や労力を出し合って専門家等の協力を得ながら開発事業の影響を調べる活動）を促進するために、「住民アセス支援サイト」を構築中で、公開しています。一度のぞいてみてください。

- ①簡易な環境影響診断（身近な開発をチェックするソフト）
- ②住民アセスの歴史を知る資料（一次資料の再録など）
- ③住民アセスの事例紹介
- ④「つくってみよう環境マップ」（子ども向け）



## 長野県住民と自治研究所 第13回 地域再生研究会

# わくわくする議会をつくろう！

～住民とともに学び、成長する場として再生を図る～

第12回マニュフェスト大賞（2017年）でグランプリを受賞された寺島涉さん（元飯綱町議会議長、本研究所会員）が、市町村議会をめぐる現状と課題、改革に向けたご自身の実践、基礎自治体の議員という仕事の極意について、縦横に語ります。

寺島さんの主導で飯綱町議会に設けられた「政策サポーター制度」は議会への住民参加を進める試みです。市町村議会は「住民自治の学校」でもあります。住民とともに学び、自分も成長する場です。地域の状況とご自分の志とを思うとき、なんとかしなきゃと思うなら、寺島さんの話を聞いてみませんか。

統一地方選挙を前に、議会と住民自治について関心のある方であれば、どなたでもご参加をお待ちしています。

日 時：2019年 1月26日（土） 午後 2時～4時

会 場：松本労働者福祉センター 3階3－2会議室（長野県松本市中央4-7-26）

講 師：寺島 涉（本研究所会員、元飯綱町議会議員7期、議長8年）

資料代：1,000円（本研究所会員は無料）

主 催：長野県住民と自治研究所

連絡先：NPO地域づくり工房 大町市仁科町3302 Tel&Fax.0261-22-7601 npo@omachi.org

## 投稿をお待ちしています

地域での出来事、政策課題、随筆など、お気軽に寄せください。手書き原稿も歓迎いたします。お問合せは事務局まで

## 研究所だより 第144号

発行日：2019年1月17日

発行人：長野県住民と自治研究所（担当：傘木宏夫）

事務局：NPO地域づくり工房

長野県大町市仁科町3302（〒398-0002）

Tel&Fax.0261-22-7601 E-Mail: jitiken@omachi.org

郵便振替口座 00570-1-80805 長野県住民と自治研究所